PR　企画・制作／読売新聞社広告局

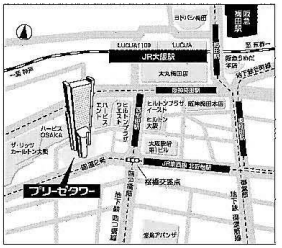
知っておきたい **目の病気**

日頃から自己チェック

「目のすべて展」入場無料

10月11日(日)、12日(月・祝)の2日間、プリーゼプラザ小ホールで開催される「目のすべて展」(入場無料)。今年のテーマは「知っておきたい目の病気」。加齢による目の病気として最も多い「白内障」や、放置していると中途失明につながるリスクの高い「緑内障」などについての特別講演のほか、眼科医療における最新治療や眼鏡の選び方、上手な目薬の差し方などが紹介されます。専門医による目の健康相談(両日ともに先着150人)や抽選会も実施。
※台風等の天候不良の場合は中止となることがございます。

11日(日) 正午開場
12日(月・祝) 午前10時開場
プリーゼタワー7階



会　場：プリーゼタワー7階「プリーゼプラザ小ホール」(大阪市北区梅田2の4の9)
日　時：■10月11日(日)正午開場
■10月12日(月・祝)午前10時開場
主　催：大阪府眼科医会
後　援：大阪府、大阪市、大阪府医師会、大阪アイバンク、日本ライトハウス、読売光と愛の事業団大阪支部、読売新聞大阪本社

＜講演スケジュール＞

10月11日(日)	正午開場
・「アイバンクの話」(大阪アイバンク)	12：20～12：40
・「ロービジョンに関して」(日本ライトハウス)	12：40～13：00
・〈特別講演1〉「白内障」講師：大阪医科大学(高槻病院)・清水一弘先生	13：00～14：00
・「加齢と眼鏡」(眼鏡組合)	14：00～14：20
・「上手な目薬の差し方」(福本敏子先生)	14：20～14：50
・〈特別講演2〉「緑内障」講師：大阪大学・臼井智一先生	15：00～16：00
・「眼底出血」(丸山耕一先生)	16：00～16：30
・「飛蚊症と網膜剝離」(米本壽史先生)	16：30～17：00
・「眼科における最新治療の紹介」(森下清文先生)	17：00～17：30
10月12日(月・祝)	**午前10時開場**
・「加齢と眼鏡」(眼鏡組合)	10：10～10：30
・「緑内障の話」(湖崎淳先生)	10：30～11：00
・〈特別講演1〉「加齢黄斑変性」講師：大阪市立大学・河野剛也先生	11：00～12：00
・「アイバンクの話」(大阪アイバンク)	12：00～12：20
・「盲導犬の話」(日本ライトハウス)	12：20～12：40
・「感謝状贈呈」(大阪府眼科医会)	12：40～13：00
・〈特別講演2〉「緑内障」講師：近畿大学・奥山幸子先生	13：00～14：00
・「上手な目薬の差し方」(宮澤裕之先生)	14：00～14：30
・「飛蚊症と網膜剝離」(宮浦徹先生)	14：30～15：00
・〈特別講演3〉「白内障」講師：関西医科大学・松岡雅人先生	15：00～16：00
・iPS細胞と目の病気」(森下清文先生)	16：00～16：30
両日	

▷目の健康相談(受付時間は11日が12：00～16：00、12日は10：00～15：00、いずれも先着150人まで)
▷お楽しみ抽選会
▷児童・生徒絵画展「メガネがつなぐみんなのまち！」
▷眼科啓発パネル展示　▷大阪アイバンクコーナー
▷日本ライトハウスコーナー

加齢黄斑変性

視野のゆがみ すぐ受診

大阪市立大学
河野 剛也 氏

1985年大阪市立大学卒業。大阪市立大学医学部眼科学教室入局。89年同大学大学院医学研究科修了。同大学助手、講師を経て、2002年から大阪市立大学准教授。専門は眼底疾患。

森下　どのような種類がありますか？　検査についても教えてください。

河野　加齢黄斑変性は萎縮型(ドライタイプ)と滲出型(ウェットタイプ)の二つに大別されます。萎縮型は網膜が徐々に弱くなり、萎縮していきます。滲出型は脈絡膜新生血管という異常な血管が発生し、そこから出血を起こしたり、血液の異常な成分が血管外に出てきたりして、比較的急激に視力が低下します。大切なことは、ゆがみを感じた時に早めに眼科を受診していただくことです。

森下　どのような検査をするのですか？

河野　検査としては視力検査やゆがみ感を測る検査を行います。加齢黄斑変性滲出型でもいくつかのタイプに分かれ、治療が変わってきます。蛍光造影検査や、網膜などの形態を詳細に調べることができる光干渉断層計(OCT)による検査を行います。

森下　予防法はあるのですか？

河野　禁煙を心がけてください。またビタミンC・E、βカロテン、亜鉛などを含んだサプリメントを飲むと発症を抑えるとの報告もあります。さらに、緑黄色野菜を積極的に取ることで発症抑制が期待できます。

河野　加齢黄斑変性も肥満が増悪因子とされていますので、有酸素運動を含めた運動も意味があると思います。

森下　どのような治療を行うのですか？

河野　萎縮型は現在のところ、進行を止める、または回復させる治療はありません。滲出型に対しては近年、ある程度治療ができるようになりました。大きく分けて薬物療法、レーザー光線を使ったものがあります。基本的な治療は薬物療法です。新生血管を作り出す血管内皮増殖因子(vascular endothelial growth factor＝VEGF)が目の中で増加するのですが、それを阻害することにより脈絡膜新生血管を退縮させる抗VEGF薬を使います。特殊な薬剤を利用した光線力学的療法、レーザー光線によって新生血管を直接凝固して退縮させる方法、最近はあまり行われませんが、新生血管を手術的に抜去するという方法も選択肢としてはあります。

iPS細胞 応用に期待

大阪府眼科医会理事
森下 清文 氏

1980年兵庫医科大学卒業。大阪医科大学講師を経て、91年大阪市北区で眼科を開業。専門は白内障、緑内障、眼底出血。市民への啓発活動をライフワークに各地で市民講座を開催している。

森下　iPS細胞を使った治療も今後、期待されますが。

松岡　脈絡膜新生血管や周囲の傷んだ網膜色素上皮を取り除き、その部分にiPS細胞を移植しようとする方法で昨年9月、世界で初めて行われましたが、実際に臨床に使われるようになるには10年以上かかるのではないかと思われます。誤解しないでいただきたいのは、iPS細胞の治療が成功したからといって、見えなくなった視力が戻るというわけではありません。現状では極々のロービジョンケアグッズ(拡大鏡など)を用いて、日常生活が不自由なく暮らせるようになればと願っている治療です。

河野　加齢黄斑変性の場合、抗VEGF薬を使うと約70％の人は適切に治療を受ければ視力を維持することができますが、約30％の方には効果が得にくいのも事実です。そのような場合それぞれの見え方や視野に異常がないかをチェックすることが大事です。

臼井　車の運転は年齢とともに反応が鈍くなりますので、緑内障の方は特に気を付けてください。

清水　病気は治療法が進歩し、安全性や術後成績も上がってきていますが、外傷はダメージがとても大きく、手術が極めて困難なケース(眼球破裂など)があります。高齢の方や特に白内障や緑内障の術後の方は、転倒による目の打撲に十分に注意してください。

松岡　アトピー性皮膚炎の方で特に若い人は、数カ月の間に急激に白内障が悪化することがありますので、定期的に診察を受けるようにしてください。

奥山　アトピー性皮膚炎の患者さんの中には市販薬の副腎皮質ステロイド入り軟膏を顔面に塗っている人が少なくありません。知らない間に眼圧が上昇し、緑内障が深刻化することがあります。こうした薬を使う場合はぜひ眼科で合併症の有無のチェックを受けてほしいです。